

## ご挨拶

平素は格別のご高配を賜りありがとうございます。

今年寅年です。「寅年は景気が大荒れになる」というジンクスがあるのをご存知でしょうか。例えば1986年（中曽根内閣時代）は急激な円高に伴い、景気は停滞し不況の波が押し寄せました。また1998年（橋本→小渕内閣時代）はその前年秋の大手証券・銀行（山一証券、三洋証券、北海道拓殖銀行）の経営破綻の影響を受け景気、経済は大混乱に陥りました。残念ながら今年もあてはまってしまいそうです。

サブプライムローン問題、リーマンショックにより拡大した世界経済の後退は新興諸国の経済成長に牽引される形で予想以上に早いペースで回復し、昨年夏には景気は底を打っ

いずれも高い水準を維持しています。

当金庫は今後とも信用金庫の中核的業務である預貸金業務に特化し、すべての経営資源をこの分野に集中投資して事業展開をして参ります。昨年11月には「中小企業金融円滑化法」が時限立法として成立し12月より施行されましたが、当金庫は経営の基本方針として中小零細企業（事業主）へのきめ細かい対応を掲げており、従来から当たり前のこととして取り組んでおります。この経営方針に基づいた当金庫の企業再生、事業再生に対する活動は以前から広く注目されており、昨年4月にもテレビ番組「ガイアの夜明け」（テレビ東京）でその具体的活動内容が紹介され高い評価を受けました。今後もお客様からの様々な相談に対応するとともに、新たなビジネスチャンスを提案できる態勢構築に向けて取り組みを強化して参ります。

さらにお客様に新たな「出会い」の場を提供できるよう様々なイベントも行って参ります。この1月には「さんきょう友の会」（当金庫で年金を受給されているお客様の会）恒



理事長 鳴海 克實

たとの論評もありました。しかし実態としては中小零細企業の経営を取り巻く環境は依然として厳しくまだまだ回復とは程遠いものです。また消費者物価も下落し続けており、「デフレスパイラル」という悪循環が懸念されています。更にそれに追い討ちをかけるように昨年11月後半から急速な円高が進行しわが国の経済、景気情勢はますます厳しさを増し、先行きも不透明感を増しているというのが現在の状況です。

さて、当金庫は昨年9月の中間決算において預金残高1,370億円、貸出金残高922億円、経常利益263百万円、当期純利益204百万円を計上することができました。特に貸出金については昨年6月から9月にかけて展開した融資増強運動で約500件、112億円の新たな融資を取扱いました。こうした取り組みもあり預貸率（預金残高に対する貸出金残高の割合）は9月末現在で67.3%と依然都内信用金庫で2番目の高さを堅持しています。この結果9月末における自己資本比率は10.06%、中核的自己資本比率（Tier 1）においても8.11%と

例の観劇会が、3月には同会の一泊旅行が実施されます。また事業者の方を対象としたBCS（ビジネスクラブさんきょう）では、例年どおりビジネスマッチングフェアの開催や視察旅行等を実施し業種の枠を超えた出会いの場、新たなビジネスチャンスを提供してゆきます。昨年10月にはこうした取り組みの一環としてお取引先の若手経営者や事業後継者の育成の場として経営者勉強会「Terra（テラ）小屋」を開塾し、次世代経営者の経営力向上に向けお客様と当金庫が力を合わせて取り組む体制を整えました。さらに中小零細企業の経営課題に対する取り組み、研究を強化するため地元の東京富士大学と産学連携協定を取り交わしました。

このようにあらゆるチャンネルを通じて皆様のお役に立てるよう地域金融機関としての役割をしっかりと果たしてゆく所存です。今後とも倍旧のご指導、ご鞭撻を何卒宜しくお願い致します。末筆になりましたが、皆様のご健康とご多幸、事業のご発展をお祈り申し上げます。